

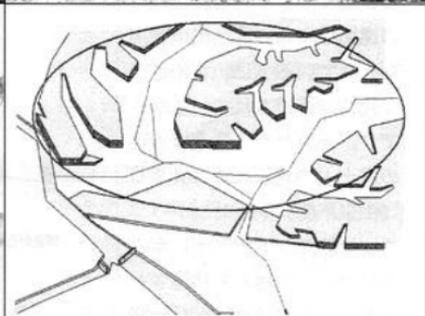
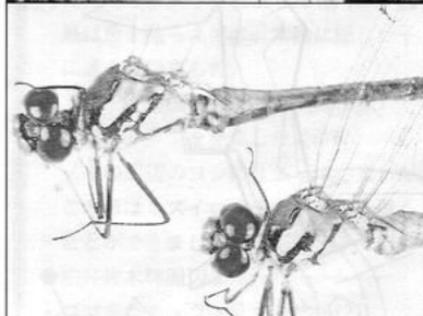
市川自然博物館

8-9月号 だより

(通巻87号)



自然博物館のめ



ナツアカネ

左上：棒の先などによくとまる。
 左下：アキアカネ(上)とナツアカネ(下)。
 胸のまん中の黒条の形などがちがう。

右上：夏は明るい林のしげみなどに多い。
 右下：市の中部～北部ではよく見られる。

今年度の特集は、長田谷津総合調査の内容を紹介してゆきます。

第Ⅲ回は『長田谷津の植物』についてです。

長田谷津 総合調査報告 III 長田谷津の植物

長田谷津の植生が、湿地・斜面林・農地（台地上）の3つに区分されることを前回、紹介しました。今回は、そのうちの湿地と斜面林について、植物の種類を調べた結果を報告します。長田谷津の植物は、「自然のまま」とは言っても安定的なものではなく、長年の間にさまざまに変動してきました。

●種類の調査

調査は、1999年の1月から12月にかけて、計48回行いました。種子植物とシダ植物について、花や胞子が見られた種類を記録し、開花を確認しにくい樹木についても、別途、調査を行いました。

調査範囲は、図1のように長田谷津の湿地と斜面林の部分で、そのうち谷奥の盛土された庭園風の場所と、バラ園より下流側の一部については調査しませんでした。これらの場所は本来の湿地環境が損なわれている上に、さまざまな植物が移植されているからです。そのため、例えば谷奥の盛土上で見られるコスミレ（由来不明）や、セントウソウ、イヌヌマトラノオ、ホタルブクロ（3種とも移植されたもの）などはリストには挙がりませんでした。また、調査区域であっても、例えばリュウキンカのように移植後、

自力で増加してきている種類などは記録しましたが、ミズバショウのように植えのままの状態からあまり変化しないものは外しました。また、1年だけの調査なので、記録もれになった種類もいくつかありました。

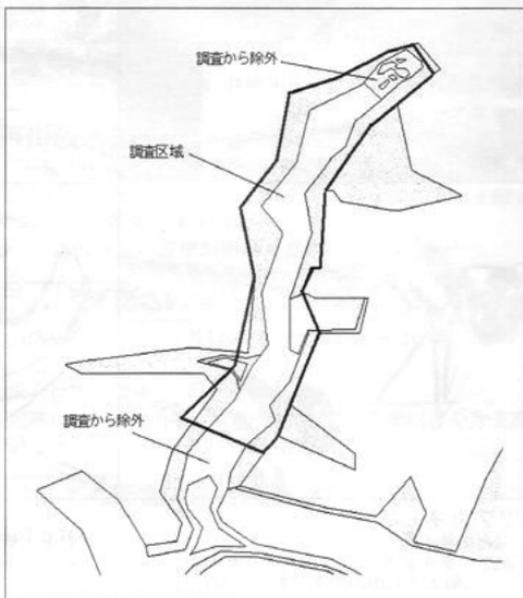


図1 調査区域

●種類の盛衰

以前の植物については「大町自然公園地域における自然調査報告Ⅰ」（市川自然環境調査グループ、1973）と「同Ⅱ」（同、1974）にリストが示されています（以下、『報告書』と省略）。今回の調査で得られた結果に、日常の観察結果を加味したものを『現状』とし、『報告書』と『現状』を対比することで植物の種類数の盛衰を洗い出してみました。

特に大きく変わったのは、湿地の植物です。『報告書』には、アゼムシロ、キクモ、アカバナ、チョウジタデ、コナギ、アゼテンツキ、ヒテリコ、ウキガヤ、チゴザサ、オモダカなどが「多い」または「普通」として記されていますが、『現状』ではすでにアゼムシロは見ることができず、キクモも数株程度しか見られません。他の種類もずいぶん減りました。

また、草原性の種類も減少しました。ノアザミやノハラアザミ、ウツボグサ、コマツナギ、クララ、キンボウゲなどの名前が『報告書』にはありますが、これも今回の調査では、ノハラアザミとウツボグサしか見つかりませんでした。

一方で、樹林に生えるハエドクソウやジャノヒゲ、ベニシダなどは『報告書』では「稀」「少ない」となっていますが、『現状』では「普通」「多い」種類です。

長田谷津は、この25年で休耕田だった湿地がヨシ原へと遷移しました。斜面林でも樹木が育ち、また、低木やアズマネザサ、タケ類なども茂るようになりました。こういう環境の変化によって植物の種類が盛衰し、一方で、その盛衰によって環境も変化しているのです。

●生育環境の属性による比較

今回リストされた334種類について、その種類が本来的に生育する環境を「湿地」「樹林」「里地（道端や空き地）」の3つに半ば強引に色分けしてみました。

その結果を示したのが、図2のグラフです。これを見ると、「樹林」の種類が多く、「湿地」と「里地」の種類は同じくらいであることがわかります。

「樹林」の種類が多いのは、ひとつには樹木が含まれているからですが、同時に、一見単調な斜面林であっても部分的にマツ林的な場所と草原的な場所があり、アブラススキやノガリヤス、ヤクシソウ、ヤマハッカ、キバナアキギリ、クサボケなどの種類を維持していることが大きいと思われます。

一方で「湿地」の種類は意外に少ない感じです。やはりこれは、湿地の広い範囲がヨシ原などに遷移したことで、種類の構成が単調になったためと思われます。

「里地」の種類は、里地の環境が少ない割には多いようです。長田谷津では、例えば湿地の中のやや高く土が堆積した場所（あぜのような場所）でも「里地」の種類を見ることができます。

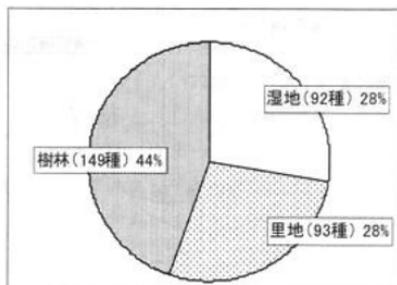


図2 生育環境属性別の種類数の割合

●移入と帰化

つぎに、「樹林」「湿地」「里地」のそれぞれの属性をもつ種類について「在来」「帰化」「移入」の3つに区分して種類数を比較してみました(図3)。このうち「帰化」と「移入」は区別が不明瞭な部分もありますが、いわゆる帰化植物で、かつ、意図されずに「勝手に」入り込んだと思われる種類については「帰化」とし、「移入」の方は、在来植物、帰化植物を問わず、意図的に長田谷津に持ち込んだものを当てはめました。例えば、キショウブは「帰化」でカキツバタは「移入」、ショッカサイは「帰化」でクレソンは「移入」としました。つまり「移入」の事実が確認できない種類については、「在来」でなければ「帰化」としてあるわけです。

「湿地」の種類について見ると、全種類のうちの1/4が「帰化」「移入」で占められています。「帰化」の種類としてはキショウブやキシウスズメノヒエ、アメリカセンダングサなどがあり、「移入」にはクレソン、リュウキンカ、ショ

ウブ、ニオイタデ、ツリフネソウ、ミクリ、ミソハギなどが含まれます。「移入」の目的には、いわゆる観賞目的のものと、希少種の他所からの保護移植という2つの面がありますが、いずれにしても「帰化」「移入」の種類は多く、しかもクレソンのように湿地全体に広がっているものもあり、湿地の植物全体を考える上で大きな要素となっています。

「樹林」の種類について見ると「帰化」「移入」の割合は低く、しかも「帰化」はシュロ、「移入」はスギやヒノキ、クマザサなどで、いずれも樹木とタケ・ササ類です。つまり、樹林の植物、特に草については人為的な影響はほとんどないわけです。

「里地」の種類については「帰化」の割合が高くなっています。これは、里地にはもともと帰化植物が入りやすいという理由によるものです。

人為的な影響の少ない樹林と、さまざまに影響を受けている湿地——長田谷津の植物の種類構成は、両者で顕著に違っていることが、調査の結果わかりました。

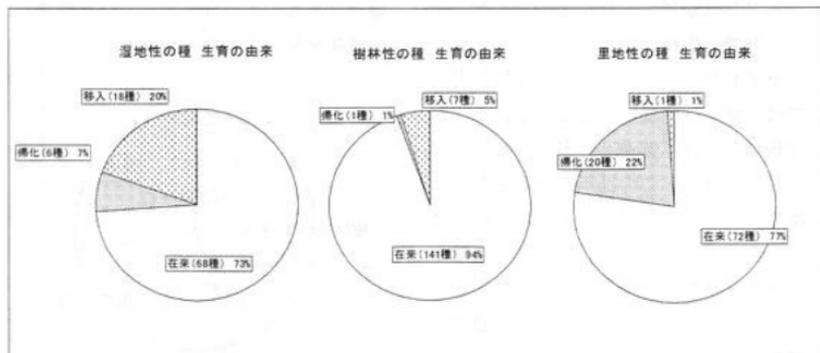


図3 生育環境属性ごとの、生育の由来の割合



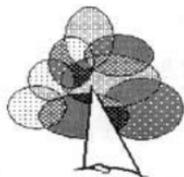
街かど自然探訪

おじゃまします!

おおのさくら

大野町・万葉植物園から大柏小

真夏の暑い日差しを避けながら、ゆっくり散策できる小道が、万葉植物園から大柏小学校にかけて700m位あります。小道への入り口は、万葉植物園の門から崖よりあり、斜面の雑木林と万葉植物園の間に細い道があります。万葉植物園で植物をゆっくり観察した後にこの道を歩くと、シラカシやコナラ、クヌギなどの木々を斜面の雑木林で散策しながら、ミズヒキやクズ、ヤブガラシの花にみる昆虫も観察できます。



くすのきのあるバス通りから No.33

小学校の子どもたちと

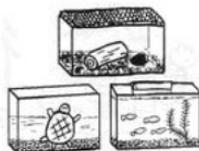
このコーナーを読んで関心を持たれた小学校の先生から「3年生の総合学習で話をしてください」と電話がありました。「鳴く虫」を飼育したり、里山の復元にかかわったりしていらっしゃる熱心な先生です。週に1クラスずつ、教室で15分話をし、それから校庭と街路樹で自然観察会をしました。

街路樹のクスノキには、今年の卵からうまれたアオスジアゲハの幼虫が大小います。歩きながらも虫の話してくれる

子に幼虫の見つけ方を教えると、隣の木でたちまち幼虫を見つけていました。石をどけて「なにがいるかなー」とこわごわ見ている子もいれば、ミミズを手に乗せて見せると「しんじられなーい」とでも言いたげに固まってしまう女の子もいます。アオスジアゲハの幼虫は、街路樹にはたくさんいますが、何故か校庭のクスノキにはいません。この疑問、誰か卒業までに解明してくれないかしら。

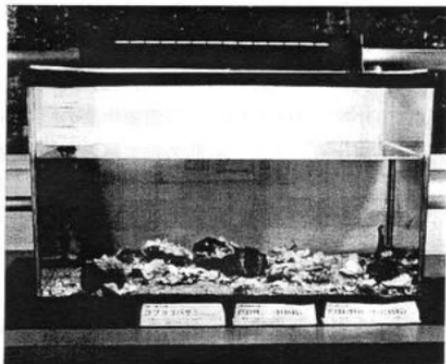
(水垣麻理子さん)

博物館で
こんないきもの飼ってます！



カニやヤドカリの水槽

放水路の干潟で捕まえた生き物を、まとめて入れてあります。昼間の時間は、ほとんどがカキ殻の間にいたり、伏せて砂の中に潜っていて、よく動いているのはヤドカリぐらいです。でもえさの時間になると、隠れ場所から一斉に出てきて、たちまちにぎやかな水槽に変わります。いろいろな大きさのカニやヤドカリが、結構対等にえさを取り合って戦いますが、いざという時、からに逃げ込めるヤドカリが、小さくても有利そうに見えます。



○ ○ 　　こんなふうには飼っています

※ ※ ※ 準 備 ※ ※ ※

- ・水 … 干潟の生き物は海水で飼うので、廃品の風呂桶に濾過器をセットし、人工海水の素を溶した水を用意しています。使う時には少し薄めます。
- ・レイアウト…隠れ場所はたくさん作ります。カキの殻の塊を、カニといっしょに持って帰ってきて入れていますが、カキが死ぬと水が一気に悪くなるので要注意。

※ ※ ※ 餌 ※ ※ ※

- ・ヤドカリ…動物園の鳥の餌用冷凍ワカサギ、干潟で採ってきた貝を冷凍しておいたものなど。解凍して皮や内臓などを取った剥き身にしてからやります。週に2回、量は少なめです。
- ・カニ…種類によって餌が違います。ヤドカリと同じ餌を食べるケフサイソガニやマメコブシガニが飼いやすいです。

※ ※ ※ その他 ※ ※ ※

- ・カニは夜中によく脱走します。エアポンプのチューブなどを器用に登ってすき間から逃げ出します。ふたの穴はきっちりふさいで、重石もしています。それでも時折、朝、廊下の隅にいてびっくりします。

わたしの
観察ノート
 No. 69

◆大町公園より

- ・ツリバナが咲いていました (5/4)。噴水のある池のそばの斜面は、ツリバナの幼木が多いところで、年々、見られる花が多くなっていくかもしれません。
- ・ウスバカゲロウが羽化をしていました (6/25)。蟻地獄もウスバカゲロウの成虫もよく見られますが、羽化中のものを見たのは始めてでした。2時間後には羽も伸びてふわりと飛び立ちました。

金子謙一 (自然博物館)

- ・クサガメが繁殖シーズンに入ったようです (6/6)。あちらこちらでガサガサと動きまわっています。アカミミガメの動きも活発です。
- ・カワセミの親子を見ました (6/13)。親鳥は魚を捕らえては、木陰に隠した子に運んでいました。

宮橋美弥子 (自然博物館)

- ・ミドリシジミを見ました (6/6)。ハンノキの周辺のヨシに止まっていました。この日はミズイロオナガシジミも見ることができました。

◆柏井雑木林周辺より

- ・ゴマダラチョウを見ました (5/21)。クヌギの樹液を吸いにコクワガタやオオスズメバチもきていました。

清野元之 (自然博物館)

◆里見公園より

- ・エゾムシクイが囀っていました (5/4)。
- ・アオバズクを見ました (6/1)。17年連続の観察です。

◆堀之内貝塚周辺より

- ・センダイムシクイ (5/10)、メボソムシクイ (5/11) が囀っていました。

◆じゅん菜池公園より

- ・キビタキが囀っていました (5/3)。

以上 根本貴久さん (菅野在住)

- ・ミクリが咲いていました (6/17)。見た目が変わっていて目を引きまします。

◆坂川旧河口周辺より

- ・カジイチゴの実がいっぱいついていました (6/1)。口に含むとやさしい甘味が広がりました。

- ・ノカラマツが咲いていました (6/24)。いろいろな植物が繁茂する土手で他の種に負けまいと頑張っていました。

以上 金子謙一

◆国府台江戸川河川敷周辺より

- ・アオアシシギを見ました (5/4)。鳴きながら下流へ飛んでいきました。
- ・ホトトギスが囀っていました (5/51)。
- ・ササゴイを見ました (6/14)。

以上 根本貴久さん

肌寒い日が続き、6月10日に梅雨入りしました。



行事案内



名前をしらべる会 お申し込みの必要はありません。直接会場にお越しください。

あなたが作った植物、昆虫、貝、岩石などの標本に専門の先生が名前をつけます。

- *日にち 8月24日㊦
- *受付時間 午前10時～11時30分、午後1時～3時集合
- *会場 市民会館（葛飾八幡宮参道脇）

観察会 お申し込みが必要な行事です。

〇いきもの観察会…親子向けの内容で、いきものの採取なども行います。小さなお子様連れの方や、大人の方だけでもどうぞご参加ください。定員：先着親子10組

	テーマ	日時	場所	受付開始日
いきもの観察会	虫の声を聴こう	9月14日㊦夕方	長田谷津	8月23日～
いきもの観察会	バッタ捕り	10月12日㊦午前	市川北高校周辺	9月20日～

申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館まで

季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)

	テーマ	日時	集合場所
河川敷の野草		9月21日㊦ 午前10時～11時30分	里見公園正門
秋の野草		10月19日㊦ 午前10時～11時30分	動植物園券売所前

親子で行徳・毎月の江戸川放水路 お申し込みの必要はありません(雨天中止)

江戸川放水路に毎月行って、干潟や土手で季節の生き物を観察します。

- *日時 8月23日㊦、9月27日㊦、10月25日㊦（11月までの第4土曜日）
- *集合 妙典公園 午前10時集合（約1時間半～2時間）
- *集合場所、持ち物など詳しくは博物館に直接お訊ねください。

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

- ・日時 9月28日㊦、10月26日㊦、(8月はお休みです) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・雨や大風など、天候不良の場合は中止です。
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをしていただきませんか。

- ・日時 9月7日㊦、10月5日㊦
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・雨や大風など、天候不良の場合は中止です。
- ・はじめて参加される方は
…まずは博物館にお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
第15巻 第3号（通巻第87号）
発行日/平成15年8月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>